

令和7年度教育実践優秀表彰の概要

- 1 目的 学校教育において、積極的な取り組みを行い、顕著な成果をあげている教員を適切に評価するとともに、その成果を普及することにより、教員の資質の向上や意欲の高揚を図り、学校の活性化に資する。
- 2 本表彰制度の開始年度 平成15年度
- 3 表彰者数（案） 教育実践優秀教員 6名（令和6年度 6名）
教育実践奨励賞 4名（令和6年度 4名）
- 4 応募数 21名（令和6年度 25名）
- 5 選考等日程
 - 12月12日 募集通知（前年度）
 - 6月 2日 募集締切（21名の応募）
 - 8月 6日 第1回選考委員会（委員の任命、1次選考：10名選出）
 - 9月 3日 第2回選考委員会（2次選考：プレゼンテーション実施）
（最終選考：6名選出）
 - 9月18日 定例教育委員会（被表彰者の決定）
- 5 表彰式 令和7年11月5日（水）
- 6 表彰の効果等

教育実践優秀教員に選ばれた者は、給与上の優遇措置や中央研修等への参加に優先的に推薦されるほか、各種研修会の講師を務めている。

また、教育実践優秀に選ばれたレポートについては、レポート集として、県内の小・中・県立学校に送付し、義務教育課と教育センターのホームページ上にも掲載して、普及を図っている。

令和7年度 教育実践優秀表彰について

○教育実践優秀教員

学 校 名	実践のテーマ	実 践 の 概 要 等
観音寺市立柞田小学校 教諭 おおひら りさこ 大 平 理茶子	児童の自己調整力を育むAARサイクルの活用 ―発達段階に応じた「ふり返り」の系統 的实践を通して―	授業で学んだことを、他の学習で生かしていない児童の実態を踏まえ、AAR サイクル(見通し―実行―ふり返り)を活用したふり返りを継続的に取り入れることを通して、自己調整力の育成を目指した実践である。発達段階に応じたふり返りの視点を系統的に整理・明確化し、校内で共有したことで、教員の支援が一貫性のあるものになるとともに、児童が自らの学びをよりよいものに高めていく姿へ変容するなど、大きな成果を上げている。
観音寺市立一ノ谷小学校 教諭 しらざわ みほ 白 澤 美穂	特別支援教育の視点を取り入れた「書き」の力を高めるための指導の在り方 ～特別の教科「道徳」の実践を通して～	書くことに対し困難性のある児童に対して、特別支援教育の視点を取り入れながら、全ての児童が主体的に学ぶことができる授業を目指した実践である。個々の児童の課題を適切に把握し、環境面(座席の配置)・教具面(ICT 機器の活用)・活動面(スモールステップによる学習活動)の支援を行うことにより、児童の「できた」という体験を積み重ねられ、学習意欲の向上につながるとともに、書く力を高めることができ、どの学級にも汎用性のある大きな成果を上げている。
三豊市立上高野小学校 教諭 おかざわ まり 岡 澤 麻里	不登校傾向児童への解決思考アプローチでの支援 ―できていることを見付けてコンプリメントするWOWWを取り入れた学級づくりを核として―	不登校児童数の増加傾向にある現状を踏まえ、「WOWW (Working On What Works) : うまくいっていることに取り組む」を学級経営に取り入れることを通して、自尊感情を育み、児童が安心して登校できる学級づくりを目指した実践である。できていることを見つけてコンプリメント(称賛・承認)する取組みや、不登校傾向にある児童の活躍の場を広げる取組みなどにより、児童が安心して過ごせる居場所づくりにつながるなど、大きな成果を上げている。
高松市立高松第一中学校 教諭 しのはら けんとう 篠 原 賢人ジョン	主体的・対話的な生徒会活動の実現に向けた手法の確立と実践について ―コンサルタントとデジタル化による生徒会活動の再構築―	教師主導の生徒会活動へと形骸化している現状において、「コンサルタント」と「デジタル化」を中心に据えた生徒会活動を構想することを通して、生徒が主体となる生徒会を目指し、生徒の自己指導能力を高めようとした実践である。教員の生徒主体を促す助言のもと、小中合同運動会の児童・生徒会種目の企画・準備や GIGA 端末を用いた生徒会朝会等を行うことにより、生徒の達成感や自己有用感を育むなど大きな成果を上げている。

坂出市立坂出中学校 教諭 いけした ゆう 池 下 侑	ふるさと坂出に架かる瀬戸大橋について 考える ～郷土を愛する生徒の育成をめざして～	身近な存在である瀬戸大橋について、四国地方に橋が必要な理由を多面的に考えることを通して、ふるさとに誇りをもち、地域社会の一員としての自覚を高めることを目指した実践である。単元構造図に、地理的な見方・考え方を明記したり、道徳科の授業や地元企業との連携による体験的な学習と関連付けて学ぶ場を設定したりすることにより、生徒の学習意欲が喚起され、生徒が主体的に意見を伝え合う協働的な学びを創造するなど大きな成果を上げている。
香川県立丸亀高等学校 教諭 くぼ ひろのぶ 久保 博 信	最後の最後まで粘り抜くことのできる強い生徒の育成について (校内模試を中心に据えた学校の活性化とその活用、学問の愉しみについて考える)	校内模試の成績データの分析および活用方法を見直すことで、生徒の学習意欲の向上につなげ、最後まで粘り抜くことのできる生徒の育成を目指した教育実践である。個人成績の変遷や個人成績と過去の進学データとの相関表を作成するとともに、校内模試や難関大学入試の出題の意図、背景、多様な捉え方などを語り合う知的対話の場「学問を愉しむ会」を設けることで、生徒の知的好奇心を喚起し、学習意欲を高めるなど大きな成果を上げている。

○教育実践奨励賞

学校名	職名	氏 名	実践のテーマ
さぬき市立長尾小学校	教諭	なりおか たかほ 成 岡 喬 穂	校内支援体制の構築について 特別支援教育コーディネーターの校務分掌を通して（さぬき市立志度小学校での実践）
東かがわ市立白鳥小学校	教諭	くぼ た なおひろ 久保田 直 寛	社会との関わりに気づき、自ら学び続ける児童の育成 ～児童の意識の流れをつなぐ授業作りの実現に向けて、子どもが問いを作る・深める・広げる～
丸亀市立城西小学校	教諭	みやはな こうへい 宮 花 昂 平	現職教育に生成 AI を！ ～ChatGPT 等を活用した授業討議～
多度津町立多度津中学校	教諭	なかつ ま お 中多 真央	「振り返り」の定着・深化と生徒が主語の授業への転換に向けて ～教員が主体的に授業改善に向かうための現職教育の取組～